

防災フェーズ	名称：市立大洲病院 防災タイムライン『中材・手術室』		(第1版 2019.12) 策定・更新：市立大洲病院災害対策チーム				
	策定目的：	当院の患者と職員の安全確保 および 施設の被災を最小限にして医療行為を継続するため	だれが	本	事	全	中
	対象災害：	暴風、大雨、河川氾濫口		部	務	部	材
	被災想定：	建物への浸水、道路冠水などによる孤立		課	共	門	・
	いつ (OR条件)	なにを (誰でもわかる明確な内容、同一フェーズ内は順不同)		通	手	手	術
					室		

フェーズI	警戒レベル2	台風が集中豪雨・発生 ・接近予測の 72～48時間前	河川の状況 【はん濫注意水位】 ・大洲第2水位観測所 の水位 3.8m	この行は使用せず、この下に新規行を追加する	情報	気象情報、ダム放流情報の確認 (以後、定期的に継続)	●			
				情報	近隣河川の水位を確認 (以後、定期的に継続)	●				
				関連部門					○	設備点検 (停電時使用可能な機器の確認)
									○	機器作動確認 (停電時使用可能な機器の確認)
									○	各科手術機材搬入業者との連絡体制の確認
									○	停電に備え冷所保存薬品の管理

フェーズII	警戒レベル3	台風が集中豪雨・進路上にあり ・接近予測の 48～24時間前 (警報切替の可能性あり) ・はん濫警戒情報	河川の状況 【はん濫危険水位 (無堤)】 ・大洲第2水位観測所 の水位 4.8m	この行は使用せず、この下に新規行を追加する	情報	通行止め等の道路状況を確認 (以後、定期的に継続)	●			
				情報	大洲市危機管理課と情報共有 (以後、継続)	●				
				情報	他院と救急体制を確認 (被災した場合の連携など)	●				
				情報	停電時非常時の外部連絡先を再確認	●				
			モノ	防災備品の在庫確認	●					目的：職員の安全確保、施設の保全、医療機器の保全 (懐中電灯+電池、ヘルメット、カムテープ、軍手、防水テープ、水囊用ビニール袋etc.)
			関連部門						○	出勤可能なスタッフの調整を師長が行う
									○	手術検定会で予定手術延期・中止等の検討
									○	衛生材料の在庫確認・停電に備え滅菌作業
									○	災害エリアボックスの確認

フェーズIII	災害発生時の恐れ (台風・豪雨の接近が休日・深夜) があれば 業務と並行して「仮設置」する		災害対策本部《仮》設置				《仮》災害対策本部は、1階事務課に設置				
	警戒レベル4	台風が集中豪雨・接近中 ・接近予測の 24～12時間前 ・土砂災害警報 ・暴風警報 ・高潮警報 ・はん濫危険情報	河川の状況 【はん濫危険水位 (有堤)】 ・大洲第2水位観測所 の水位 5.8m	この行は使用せず、この下に新規行を追加する	本部	防災タイムラインの再確認をする (役割・体制の把握)	★	●	○	○	備考の行動が実施できているか師長・主任で確認
				本部	被災予想時間が外来と重なる場合、外来診療の継続の有無を判断し告知する	★	●	○	○	○	外来患者の早期帰宅を促す (貼紙や放送で広報) 面会者への同様の対応
				本部	時系列の記録 (クロノロジー) 開始 (ホワイトボードまたはPC,紙・ノートでも可)	★	●	○	○	○	緊急時の情報管理方法 (ふりかえりにも活用)
			ヒト	災害対策本部《仮》設置時点の、医師を含む全職員の勤務調整(1) とりまとめ担当：事務課 (正式設置の際の準備として)	●	○	○	○	○	目的：災害対策本部を設置する前の段階で、予備的に行う (各部門で動息表、帰宅困難者、通勤困難者、通勤経路など調査する)	
			モノ	ラジオ、防災無線など最低ラインの通信手段が使えるか確認 (電池も)	●	○	○	○	○	目的：電話とネットが使えない際の情報収集への備え	
			モノ	屋上、階段室の確認	●	○	○	○	○	目的：浸水時、屋上から救出される場合、屋上に安全に避難できるか？屋上は安全か？など確認	
			モノ	全ての窓を施錠、カーテンやブラインドを閉める	●	○	○	○	○	目的：暴風などで窓ガラスが破損した時の飛散防止のため (他部門も協力)	
			モノ	ベランダや窓の下に動かせるモノがあれば撤去	●	○	○	○	○	目的：暴風対策 (他部門も協力)	
			モノ	屋外の備品撤去	●	○	○	○	○	目的：暴風対策 (案内板、カラーコーン、傘立て等)	
			モノ	非常用電源の作動確認	●	○	○	○	○	目的：停電対策 (電源必須の機器は赤コンセントに接続)	
			モノ	充電できる機器は充電する (院内PHS,携帯電話も含む)	●	○	○	○	○	目的：停電対策	
			モノ	PCと周辺機器のケーブルに、外しても戻せる目印をつけ、写真を撮る	●	○	○	○	○	目的：退避したあとの復旧時に再配線が混乱しないため	
			防水	「水囊」準備①ビニール袋②水囊マップ③分担	★	●	○	○	○	事前作成した「水囊マップ」を参照する	
			関連部門	PHSの充電927および753							

フェーズIV	災害レベルが上がる恐れがあれば、正式に設置する		災害対策本部《正式》設置				災害対策本部は、1階事務課から3階講堂に移動 本部用ホワイトボード準備				
	警戒レベル5	台風が集中豪雨・何らかの被災が確実 ・接近予測の 12～6時間前 ・高潮特別警報 ・大雨特別警報 ・暴風警報 ・高潮警報 ・はん濫発生情報	河川の状況 【はん濫危険水位 (有堤)】 ・大洲第2水位観測所 の水位 5.8m	この行は使用せず、この下に新規行を追加する	本部	災害対策本部設置時点の、入院患者、職員数の把握を指示	★	●	○	○	目的：孤立した場合の飲料水、食料、トイレ、水タンク貯水量などの試算のため
				本部	防災タイムラインの再確認をする (役割・体制の把握)	★	●	○	○	○	備考の行動が実施できているか師長・主任で確認
				本部	ホワイトボードに時系列の記録 (クロノロジー) 開始 (以後、継続)	★	●	○	○	○	緊急時の情報管理方法 (ふりかえりにも活用)
			本部	被災予想時間が外来と重なる場合、外来診療の継続の有無を判断し告知する	★	●	○	○	○	外来患者の早期帰宅を促す (貼紙や放送で広報) 面会者への同様の対応	
			本部	「災害対策本部設置」を職員向けにメールで周知 (以後、必要に応じてメール送信)	★	●	○	○	○		
			ヒト	医師を含む全職員の勤務調整(2) とりまとめ担当：事務課	★	●	○	○	○	目的：災害発生時に職員招集などに支障があるヒトを確認する	
			ヒト	必要に応じ、屋内託児への切替を検討 (職員の動息と連携)	★	○	○	○	○	臨時の院内保育所は4階に開設する	
			モノ	近隣丘陵地のフラワーパーク駐車場の使用許可を取り、敷地内駐車場の車を移動するアナウンスをする	★	●	○	○	○	目的：洪水対策	
			防水	①水囊を作成 ②分担して水囊マップの位置に置く	★	●	○	○	○	事前作成した「水囊マップ」を参照	
			防水	1階の各部屋のコンセントを防水テープでシール	★	●	○	○	○	出入り口を最後に防水する	
			防水	各装置の電源を切る		○	○	○	○		
			防水	ケーブルに目印を付けたPCと周辺機器をデスク上へ退避	★	●	○	○	○	目的：退避したあとの復旧時に再配線が混乱しないため	
			防水	移動できない機器がある部門の防水対策		●	○	○	○	防水テープで部屋のドア、コンセントをシール	
			防水	各部門の重要な医療機器を退避		○	○	○	○	3階講堂へ退避する。自部署の調整がきたら協力する	
			防水								

フェーズV	警戒レベル5	台風が集中豪雨・最も接近	河川の状況 ・久米川堤防の越水 ・脇川の堤防決壊	この行は使用せず、この下に新規行を追加する	モノ	敷地内、建物内の被害状況の確認	★	●	○	
				モノ	建物が孤立または 帰宅困難者がいる場合： 職員の休憩室 (待機室) の確保と周知	★	●	○	○	休憩室は、各病棟の空き病室または2階休憩室
				停電	自家発電の有無を確認、貯水タンクが使用できるか確認	★	●	○	○	
				停電	医療機器の電源確保の優先順位に従い、電力事情によって切り分ける内容を再確認 (以後、電力事情によって対応する)	★	●	○	○	
			停電	【停電】または【停電に備え】エレベータ使用制限	★	●	○	○		
			断水	屋上貯水タンクの浄水を計画的に使用するため、節水の周知 (貼紙設置)	★	●	○	○		
			断水	トイレ用タンクの水を計画的に使用するため、トイレ使用制限 (貼紙やロープ設置) ※1階トイレと各階和式トイレは使用禁止	★	●	○	○		
			ヒト	医師を含む全職員の勤務調整(3) とりまとめ担当：事務課	★	●	○	○	○	目的：災害発生時に職員招集などに支障があるヒトを確認する
			ヒト	常勤医師、非常勤医師の動息と移動手段の確認	★	●	○	○	○	
			ヒト	職員の安否確認 (全体または部門単位で)	★	●	○	○	○	手術室はラインを用いて確認
			関連部門	入院患者、職員を含めて非常食の切替え	★	●	○	○	○	
			情報	救急輸送病棟の被害状況を確認	★	●	○	○	○	